

K. 筋組織系腫瘍 muscular tissue tumors

平滑筋腫 leiomyoma

皮膚では立毛筋，血管平滑筋，陰部の平滑筋（肉様膜）から腫瘍が生じ，それぞれを皮膚平滑筋腫（cutaneous leiomyoma），血管平滑筋腫（angioleiomyoma），外陰部平滑筋腫（genital leiomyoma）と呼ぶ．直径1 cm 程度までの腫瘍が単発（ときに多発）し，疼痛，圧痛をきたすことが多い（図 21.73）．なかでも血管平滑筋腫は成人女性の下肢に好発し，寒冷刺激などにより強い発作性疼痛をきたす．陰嚢に生じたものは無痛性である．本症の悪性型は平滑筋肉腫（leiomyosarcoma）である．



図 21.73 平滑筋腫（leiomyoma）

L. 骨組織系腫瘍 osteosis tumors

1. 皮膚骨腫 osteoma cutis

頭部や四肢皮膚に生じる異所性の骨形成である．胎生期の骨芽細胞の迷入などによる原発性と，尋常性痤瘡などの炎症などが先行し，二次性に骨化をきたす続発性に区別される．非常に硬い丘疹，結節ないし局面が単発あるいは多発する．下床の骨組織と癒着していることがある．多発例では McCune-Albright 症候群（20 章 p.389 MEMO 参照）の可能性も考慮する．

2. 爪下外骨腫 subungual exostosis

指趾骨末節由来の骨組織増生が皮膚を押し上げて，爪甲下に出現したもの（図 21.74a）．10～20 歳代に多く，第一趾に好発する．疼痛が強く，爪甲の変形も伴う．グロムス腫瘍などと鑑別が必要であり，X 線撮影が有用である（図 21.74b）．治療は外科的切除．



図 21.74 爪下外骨腫（subungual exostosis）
a：臨床像．b：X 線写真．

M. 造血系 hematopoietic tumors

1. 皮膚リンパ球腫 lymphocytoma cutis

同義語：皮膚良性リンパ節腫症（lymphadenosis benigna cutis），偽リンパ腫（pseudolymphoma）

虫刺症，外傷，日光曝露，ライム病などを契機に生じること



図 21.75 皮膚リンパ球腫 (lymphocytoma cutis)

があるが、大部分は特発性である。直径1～2 cmの暗紫紅色のドーム状腫瘍が顔面に好発する（図 21.75）。弾性があり、表面平滑で潰瘍化はない。単発であることが多く、数か月で自然消退する。病理組織学的に異型性に乏しいリンパ濾胞構造を形成し、形質細胞や組織球、好酸球など多彩な細胞浸潤を認める。皮膚B細胞リンパ腫との鑑別が問題となるが、本症では濾胞形成が主体であり、多彩な細胞浸潤とリンパ球に異型性を認めない点で鑑別する。予後良好であるがまれに悪性リンパ腫へ移行する。

2. 木村病 Kimura's disease

思春期男子の顔面に好発する原因不明の疾患。単発または多発する直径5～10 cmの皮下～皮内腫瘍で、扁平ないし半球状に隆起し、弾性軟で一部硬結を伴う。表面皮膚は褐色を帯び、ときに瘙痒を伴う（図 21.76）。病理組織学的には、皮下にリンパ濾胞を形成し、著明な好酸球浸潤を認める。末梢血や骨髓においても好酸球増多を認め、IgE 高値をとることが特徴的。アトピー性皮膚炎や痒疹^{ようしん}を合併することがある。治療はステロイド局注が有効であるが、きわめて慢性に経過する。好酸球性血管リンパ球増殖症（次項）との異同が常に議論となる。

3. 好酸球性血管リンパ球増殖症 angiolymphoid hyperplasia with eosinophilia ; ALHE

同義語：epithelioid hemangioma

耳介周囲から前額および側頭に好発する、直径数 cm までの



図 21.76 木村病 (Kimura's disease)
耳介周囲の皮内から皮下の結節、腫瘍。

lymphocytic infiltration
of the skin (Jessner)

MEMO 